

第七十六回帝國議會  
衆議院

樺太開發株式會社法案委員會會議錄(速記)第二回

付託議案  
樺太開發株式會社法案(政府提出)  
(第二〇號)

會議

昭和十六年二月三日(月曜日)午後一時十九分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 沖島 鎌三君

理事田代 正治君 理事松尾 孝之君

理事手代木隆吉君 理事松浦周太郎君

石坂 豐一君

菊池 良一君

澤田 利吉君

服部 英明君

中野 寅吉君

藤本 捨助君

二月二日委員田中邦治君辭任ニ付其ノ補闕トシテ服部英明君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

出席政府委員左ノ如シ

拓務次官 北島謙次郎君

拓務省殖産局長 植場 鐵三君

拓務書記官 中野 勝次君

樺太廳長官 小河 正儀君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

樺太開發株式會社法案(政府提出)

○沖島委員長 ソレデハ是ヨリ開會致シマス、樺太開發株式會社法案ヲ議題ト致シマス、先ヅ政府ヨリ提案ノ理由ニテ御説明ヲ願ヒマス——拓務大臣

○秋田國務大臣 樺太開發株式會社法案ヲ提出致シマシテ、當委員會ノ御審議ヲ願フコトニナリマシタガ、私提案ノ理由ニ付テ申上グベキ答デアリマスガ、生憎丁度此ノ時間ニ貴族院ニ於ケル豫算總會方開カレマ

シテ、劈頭拓務省關係ノ質疑ガアリマスル爲ニ、私ノ出席ヲ要求サレテ居リマスノデ、甚ダ失禮デゴザイマスケレドモ、本法案提出ノ理由ノ説明ハ、次官ヲシテ之ニ當ラシムルコトニ致シマス、ドウゾ惡シカラズ御諒承願ヒタイト思ヒマス、尙ホ貴族院ニ於ケル豫算總會ノ質疑ハ、サウ長イ時間ヲ要サナイ見込デゴザイマスカラ、濟ミ次第直チニコチラニ出席致ス考ヘデゴザイマス、ドウゾ左様御承知ヲ願ヒマス

○北島政府委員 ソレデハ私カラ樺太開發株式會社ニ付キマシテ、是ガ設立ノ趣旨並ニ其ノ概要ヲ御説明致シタイト思ヒマス、時局ノ進展ニ伴フ國內産業ノ擴充ニ依リマシテ、是ガ基本資材デアリマスル石炭ノ需要ハ最近著シク増加シテ參ツタノデアリマスガ、樺太ニ於キマシテハ、良質ナル石炭資源ガ全島内ニ互ツテ多量ニ賦存シ、且ツ其ノ採掘及ビ運搬ニ關スル條件モ比較的良好デゴザイマスノデ、之ヲ開發致シマシテ、燃料國策ニ積極的ニ寄與スルコトハ、此ノ際極メテ緊要ナル方策ト考ヘル次第デアリマス、又樺太ノ森林資源ハ我が國工礦業其ノ他木工場用材ノ供給ニ大ナル貢獻ヲ致シテ居ルノデアリマシテ、殊ニ最近ニ於ケル是ガ需要ノ増加ハ洵ニ著シキモノガアルノデアリマス、仍テ各種木材ノ價格ノ調整並ニ配給ノ圓滑ヲ期スル爲ニ、斫伐事業ノ合理的經營ヲ致シマスコトハ、今日極メテ必要デアルト考ヘラレリノデアリマス、同時ニ又是ガ爲ニ樺太ノ森林資源ヲ恆久的ニ保續セシメマスル共ニ、是ガ積極的増殖ヲ圖

ルコトモ此ノ際特ニ意ヲ用ヒナケレバナラナイコトト存ゼラレマスノデ、現在無立木ノ儘放任シテゴザイマスル土地ニ對シ、廣範圍ノ造林事業ヲ實施シタイト存スル次第デゴザイマス、更ニ現在食糧ヲ盡ク島外ヨリノ移入ニ俟ツテ居リマスル樺太ト致シマシテハ、最近ニ於ケル帝國ノ食糧事情ニ鑑ミマシテ、是非トモ島内ニ於テ一部食糧ノ自給化ヲ圖リ、以テ島民ヲシテ居ニ安ンジテ其ノ業ヲ樂シマシメルコトガ、實ニ喫緊ノ要務デアルト存ジマスノデ、是ガ爲ニ國有未開地及ビ民有未利用地ノ開發ヲ行ヒマシテ、實情ニ適合シマシタ有畜機械化農場ノ經營ヲ行ハントスル次第デアリマス、以上ノヤウナ樺太ノ當面致シテ居リマスル各種ノ緊要ナル事業ヲ遂行シテ併セテ樺太ノ拓殖開發ニ資スル爲ニハ、國民ガ直接ニ指導監督ヲ加ヘ得ルヤウナ強力ナル機關ヲ設置致シマシテ、是ガ遂行ヲ期スルノ必要ガアルト存ジマシテ、今回政府ニ於キマシテ本會社ノ設立ヲ企圖致シタ次第デゴザイマス

次ニ本會社ノ概要ヲ申上ゲマスルト、先ヅ本會社ハ特別法タル樺太開發株式會社法案ヲ制定シ、設立致スルコトト相成ル次第デゴザイマス、資本金ハ總額五千萬圓、總株數百

萬株、一株ノ金額五十圓トシ、第一回拂込ハ其ノ二分ノ一ヲ徵收スル豫定デゴザイマス、資本構成ハ半額ヲ政府出資、半額ヲ民間出資トシ、政府出資ト致シマシテハ、樺太廳ノ現ニ所有シテ居リマスル石炭鑛區ノ鑛業權及ビ金錢ヲ以テ之ニ充テル豫定デゴザイマシテ、而シテ政府カラ現物出資スベ

キ石炭鑛區ノ鑛業權ニ付キマシテハ、別ニ評價委員會ヲ設ケテ公正妥當ナル評價ヲサシムル積リデゴザイマス、尙ホ民間出資中一部ノ株式ハ之ヲ公募スル豫定デゴザイマス、此ノ會社ハ本店ハ豐原市ニ置キマシテ、支店及ビ出張所ハ政府ノ承認ヲ受ケテ、今後ノ必要ニ應ジマシテ適當ノ地ニ置ク豫定デゴザイマス、役員ハ社長、副社長各一人、理事三人以上、監事二人以上ト致シマシテ、社長及ビ副社長ハ主務大臣ガ之ヲ任命シ、其ノ任期ヲ五年、理事ハ株主總會ニ於テ選舉シタル二倍ノ候補者中カラ、主務大臣ガ之ヲ命ズルコトニ致シマシテ、其ノ任期ヲ四年、監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選任シテ、其ノ任期ヲ二年ト致ス積リデゴザイマス、又本會社ニ對シマシテハ一方ニ於テ政府ハ嚴重ナル監督ヲナシマス同時ニ他方ニ於キマシテハ相當ノ特權ヲ與フルコトト致シマシテ、即チ拂込資本金額ノ三倍ヲ限リ、樺太開發債券ヲ發行シ得ルモノト致シ、且ツ此ノ會社ノ事業ニ對シマシテハ、政府ハ適宜助成ノ途ヲ講ジ、以テ是ガ健全ナル發達ヲ庶幾スル積リデアリマシテ、是ガ爲メ毎營業年度ニ於テ配當シ得ベキ利益金額ガ、政府以外ノ者ノ所有スル株式ノ拂込ミタル株金額ニ對シテ年六分ノ割合ニ達スルマデハ、政府ノ所有スル株式ニ對シテ利益ノ配當ヲナスコトヲ要セザルモノトシ、又利益金額ガ六分ノ割合ヲ超過シタ場合ニ於キマシテハ、其ノ超過額ハ利益配當ガ拂込ミタル株金額ニ對シ均一ノ割合ニ達スルマデ、政府以外ノ者ノ所有スル株金額ト、

政府ノ所有スル株金額トニ對シ一ト四ノ割合ヲ以テ之ヲ配當スルコト致シタイト考ヘテ居ル次第ゴザイマス

次ニ本會社ノ事業ノ概要ニ付キマシテ申上ゲタイト存ジマス、先ヅ石炭採掘事業、デアリマスガ、是ハ現下燃料資源ノ熾烈ナル需要ニ鑑ミマシテ、樺太炭田ノ開發増産ヲ行ハントスルモノデアリマシテ、差當リ樺太廳ノ出資ニ係ル奥南名好鑛區ノ採掘ニ着手スル豫定、ゴザイマス、是ハ御手許ニ略圖ヲ差上ゲテアルト思ヒマスガ、此ノ鑛區ハ南名好川ヲ溯ルコト約八「キロ」以東十五「キロ」ノ地域ニ互ル面積一千万坪ノ鑛區、ゴザイマシテ、其ノ稼行炭量大體三千五百萬「トン」炭質モ比較的良好デアリマシテ、出炭計畫ト致シマシテハ、先ヅ第一年次ニ於キマシテハ約十萬「トン」、其ノ後次第二增加致シマシテ、第六年次カラ百萬「トン」ヲ出炭スル計畫ニ相成ツテ居リマス

第二ハ石炭事業、ゴザイマスガ、是ハ最近石炭鑛業ノ發展ト、色々ノ工業ノ勃興ニ伴ヒマシテ、木材需要ノ増加ニ對處セントスルモノデアリマシテ、是ガ爲メ樺太廳ヨリ國有林木デアリマス、椴松、蝦夷松及ビグイ松ノ拂下ゲヲ受ケマシテ、會社ノ方デ之ヲ伐採シ、丸太材トシテ島内鑛山業者、木工場經營者、其ノ他ニ配給セントスルモノデアリマス、實際ノ豫定ト致シマシテハ、第一年次ニ丸太材百萬石、第二年次以降ハ大體毎年丸太材二百五十萬石ヲ生産セントスル計畫、ゴザイマス

第三ニ造林事業、ゴザイマスガ、是ハ樺太森林資源ノ枯渇ヲ防止シ、是ガ恒久的の保續ヲ期シマスルト共ニ、積極的の増殖ヲ圖リ、我が國纖維工業資材ノ源泉ヲ確保セントス

ルモノ、ゴザイマス、是ガ爲メ現在無立木ノ儘放任シテ居リマス、國有未開地六萬町歩ヲ本會社ニ貸付ケマシテ、之ヲシテ蝦夷松、椴松及ビグイ松ヲ植栽セシメルコト致シマシテ、一方樺太廳カラハ必要ナル苗木ヲ無償交付シ、且ツ林内歩道及ビ防火線ノ施設經費ニ對シテハ補助金ヲ與ヘントスルモノデアリマス、而シテ植林ハ第二年次カラ十五年次マデニ完了セシメル積リ、ゴザイマシテ、當初二箇年間ハ播種造林ヲ行ヒマシテ、四年度以降ハ人工植栽ニ依ルコトトシ、此ノ期間内ニ於テ椴松、蝦夷松合セテ二萬五千町歩、グイ松三萬五千町歩合計六萬町歩ノ植栽ヲ完了シ、植栽後グイ松ハ四十五年、椴松及ビ蝦夷松ハ九十年ニシテ主伐期ニ達シタ後ハ、各樹種共年伐量ヲ定メマシテ、天然更新ニ依リマシテ一定ノ蓄積量ヲ保有セシメタイ、斯様計畫ニ相成ツテ居リマス

最後ニ農場經營事業、ゴザイマスガ、是ハ樺太ニ於ケル食糧自給ノ一助ニ資センガ爲メ、國有未開地及ビ民有未利用地ノ開發ヲ行ヒマシテ、十五年箇年計畫ヲ以テ樺太ニ適合シタ畜機械化農場ヲ經營セントスルモノデアリマス、是ガ爲メ毎年一千町歩ノ豫定デ以テ十年後ニハ合計一萬町歩ノ開發ヲ行ハントスルモノ、ゴザイマス、經營ノ概略ヲ申上ゲマス、大體一農場ノ單位面積ハ二百町歩ト致シマシテ、各農場ハ二箇年ヲ以テ開墾ヲ完了シテ、「トラクター」ハ百町歩ニ付テ一臺ノ割合ヲ以テ常置致シマシテ、開墾、整地其ノ他ノ主要作業ヲ處理セシメル豫定、ゴザイマス、尙ホ栽培ノ品種ハ小麦、燕麥、蠶豆、馬鈴薯、甜菜、「チモシ」等、クロバー等、ゴザイマシテ、此ノ外

又乳牛、種牡牛、排馬及ビ豚、サウ云フ家畜ヲモ飼養スル豫定、ゴザイマス、大體此ノ會社ノ事業ト致シマシテハ、サウ云フ事業ヲ豫定致シテ居リマス、此ノ外本會社ハ必要ニ應ジマシテ漸次是等ノ事業ノ附帶事業及ビ樺太ノ開發ノ爲メ必要ナル事業ヲ經營致シマスルト共ニ、重要ナル事業ニ付キマシテハ、或ハ子會社ヲ設立シ、或ハ資金ヲ融通致シマシテ、是ガ指導統制ヲ圖ルコトト致シ豫定ニ相成ツテ居リマス、大體以上ヲ以テ本會社ノ概略ノ御説明ヲ終ルコトニ致シマス、尙ホ御質問ニ應ジテ御答致シタイト思ヒマス

○沖島委員長 是ヨリ質疑ニ入リマスガ、質疑ニ入ルニ先ダチマシテ、資料ヲ御要求ニナル御方ハ此ノ際御要求ヲ願ヒタイト思ヒマス

○松浦(周)委員 資料ヲ少シク要求致シタイト思ヒマス、各般ニ互ル開發事業ヲオヤリニナルノゴザイマスカラ、樺太ノ開發過程ヲ資料ニ於テ知ル方ガ時間ノ節約ニナルト思ヒマス、少シ複雑、ゴザイマスガ、以下申上ゲルモノノ蒐集ヲ願ヒタイト思ヒマス、一ハ農耕地十箇年間ノ開拓年次表、其ノ總面積、及ビ十箇年間ノ農家戸數及ビ人口ノ増加年次表、之ヲ一ツ御願ヒシマス、ソレカラ今後ノ開拓豫定面積ト年次計畫表、年ニ幾ラツツ開拓シテ行カレル豫定デアルカ、是ハ樺太廳ノモノデアリマス、其ノ次ハ農産物ノ十箇年間各種別生産表、ソレカラモウ一ツハ家畜ノ方デアリマス、牛、馬、羊、狐、兎、家禽ノ十箇年間ノ増加表、「ビート」工業ノ創立以來ノ作付反別ト其ノ生産高、是モ創立以來ノモノヲ知リタメ、其ノ次ハ森林ニ關係致シマシテ、森林

面積ト其ノ總蓄積各種別表ヲ得タイト思ヒマス、其ノ次ハ十箇年ノ森林收入ト撫育造林費トノ比較、之ヲ十箇年ノモノヲ得タイト思ヒマス、十箇年間ノ年次造林面積ト現有無立木地ノ面積、之ヲ得タイト思ヒマス、ソレカラモウ一ツ森林ノ方面デハ、現在實行致シテ居リマス所ノ施業案ノ開期年限ト十箇年間ノ伐採石數表、同時ニ最近ニ於ケル増伐ノ石數表、此ノ増伐ハ多分施業案ノ現狀ヨリ後廻シデ伐ツテ居ラレラウト思ヒマス、其ノ増伐石數表、ソレカラ其ノ次ハ一年ノ總伐採石數、其ノ中カラ島内「バルプ」用資材、製紙用原料ト、製材、坑木用、電柱其ノ他用途別ノ島内ノモノノ表ヲ御願ヒシタイト思ヒマス、ソレカラ島外移出石數、ソレヲ同時ニ御伺ヒシタイト思ヒマス、ソレカラ木材業者ノ數ト伐採從業員ノ數、ソレヲ得タイト思ヒマス、ソレカラ天然林ノ平均成長率ト人工林ノ平均成長率トノ比較ヲ得タイト思ヒマス、ソレカラ前ニ廻リマシテ、農耕方面デアリマスガ、十箇年間ノ農耕地ノ植民費ト其ノ施設費ノ總額、同時ニ一町歩當リ樺太ハ國費ヲ幾ラ費シテ植民ヲ誘致シテ居ラレカ、今マデノ一町歩當リノ國費ノ調査ヲ得タイト思ヒマス、ソレカラ石炭ノ總埋藏量、此ノ過去五箇年間ノ年次出炭量、今後出炭見込「トン」數、平均出炭費ト港灣マデノ平均運費、所謂仕上リ「コスト」デアリマス、是ノ平均ノモノヲ得タイト思ヒマス、拓務省關係内ニ於ケル國策會社ノ社名ト三箇年間ノ考課狀、所謂損益表、ソレカラ重役人ノ前任職名ト俸給ト、現俸給ノ比較表、水產方面ニ於キマシテ、五箇年間ノ各種別漁獲高量ト其ノ金額、漁業ノ戸數ト人口、今後ノ漁

業振興計畫等ガゴザイマスデアリマセウカラ、ソレヲ得タイト思ヒマス、以上私ハ資料ヲ要求致シマス

○小野(謙)委員 大體今松浦君ヨリ御願ヒシタヤウナコトヲ御伺ヒ致シタイト思ツテ居ツタノデアリマスガ、私共ノ手許ニ今度ノ南名好ノ炭礦ノ略圖ヲ頂戴シテ居リマスガ、此ノ略圖ニ、現在樺太ニ於ケル國有若シクハ民有ノ全炭田ノ位置ヲ入レテ戴クトガ出來レバ大變結構ダト思ヒマス、尙ホ其ノ大體ノ面積ト既ニ開發ニ着手シテ居ルモノ、又未開發ノ分ガ若干分類ガ出來レバ、尙結構デアリマス、ソレカラ現在マデ三十數年間ノ樺太ニ對スル投資額ト申シマセウカ、投資財閣下言ツテハ語弊ガアルカモ知レマセスガ、投資者ノ系統若シクハ投資額ヲ御調ベテ願ヒタイ、ソレカラ前年度ニ於ケル——曆年デ申セバ、前年ノ樺太ニ於ケル各種ノ生産總額、詰リ各種産業別ノ生産額ヲ伺ツテ見タイ、是ハ要覽ヲ拜見スレバ直グ分リマスガ、要覽ハ計數ガ古イデスカラ、極ク最近ノ御提出願ヒタイ、是ハ年次表ガアレバ尙結構デアリマス

○松尾(孝)委員 大體松浦君カラ御述ベニナツタ要求デ盡キテ居リマスガ、私ハソレニ附加ヘテ、此ノ會社ガ設立サレタ後ニ事業ヲ開始サレテカラ——松浦君カラ要求サレタモノモ十箇年間ノ色々ノ統計ガ要求サレテ居リマスガ、其ノ會社ガ設立サレタガ爲ニト云フコトヲハツキリ茲ニ示シテ戴キタイ、ソレカラ今ノ次官ノ御説明デ現在樺太ハ全部食糧ハ他カラ之ヲ得テ居ル狀態デアリマスガ、ソレガ今後人口ノ増加ニ伴ウテ、何年後ニナツタナラバ、自給自足ニナリ得ルカト云フコトガ、年次のニ分レバ御調ベ

戴キタイ、尙ホソレハ現在ノ人口ト今後ノ人口ノ増加ノ趨勢——見込デセウガ、ソレヲ調ベテ戴キタイ

○小河政府委員 只今ノ各委員カラ御要求ニナリマシタ資料ハ、出來得ル限り速カニ整ヘテ御手許ニ差上ゲマス、但シ中ニハ到底出來ナイヤウナ資料モアルカモ知レマセスガ、ソレハヤツテ見タ上デナイト分リマセス、尙ホ差上ゲマス資料ノ數字ハ全部秘密デアリマシテ、外部ニハ御出シ願ヘナイモノデアリマスカラ、其ノ御積リデ御取計ラヒテ願ヒマス

○杉山委員 私ハ他ノ委員會ニ出テ居リマシテ、少シ遅レテ参リマシタカラ、同僚諸君ノ參考資料ト、時ニ重複シテ居ルカモ分リマセスガ、若シ重複致シマシタラ省イテ戴イテ結構ダト思ヒマス、先ヅ最近五箇年間位ノ森林ノ伐採面積、竝ニ一方デハ栽植面積ヲ比較シテ戴キタイ、ソレカラ今後栽植スベキ無立木地ノ面積ハドレ程アルカ、ソレカラ國有未開墾地ノ面積ガドレ位アルカ、又今日マデ開墾シテ來タ數箇年ノ成績ガ分レバ御伺ヒ致シタイ、ソレカラ樺太ニハ集團移民ノ規則ガアリマスガ、集團移民ガドウ云フヤウナ狀況ニココ數年間運バレテ居ルカ、其ノ成績、尙ホ其ノ他ニ商工移民トデモ申シマセウカ、サウ云フヤウナ狀況モ分レバ御調ベシテ戴キタイ

○服部(英)委員 一ツ政府委員ニ御尋ネ致シマス、此ノ第十二條ノ第五號、前各號ノ外經濟開發ノ爲必要ナル事業トアリマスガ、交通、通信、運輸ニ關スルモノモ其ノ中ニ入ツテ居リマスカ

○小河政府委員 此ノ第十二條ニアリマス第五號ノ「前各號ノ外經濟開發ノ爲必要ナル事業」ト云フ中ニハ交通、運輸ハ今直接ニハ豫定シテ居リマセス、併シナガラ將來海運其ノ他ノモノガ必要ニナツタ場合ニハ、此ノ會社ガ、傍系ノ會社トシテ事業ヲ經營スル場合ガアルカモ知レマセスガ、只今ハマダ之ニ豫定シテ居ルモノハナイノデアリマス

○沖島委員長 服部君、質疑ヲナサルヤウデシタラ通告願ニ依ツテ願ヒマス

○服部(英)委員 ソレヲ聽イタ上デ資料ノ要求ヲシタイト思ツタノデス、ソレデハ過去三年間ニ於ケル交通、運輸ノ増加率ノ資料ヲ要求シテ置キマス

○沖島委員長 他ニ資料ノ御要求ガナイヤウデアリマスカラ、是ヨリ質疑ニ入リマス——田代君

○田代委員 時間ノ節約ヲ圖ル爲メ簡潔ニ申上ゲマスガ、無論本會社ノ目的ハ、其ノ重點ガ石炭ノ採掘ニアルト思ヒマス、日本ノ現狀ニ照シマシテ、鐵ト石炭ハドウシテモ増産シナケレバナラナイ、是モ無論分ツテ居リマス、殊ニ樺太ニ於ケル石炭ノ礦脈ガ海岸近クニアリマシテ運搬ニモ便利デアル、今マデドウシテ開發サレナカッタカト不思議ノ念ニ驅ラレル位ノモノデアリマスカラ、斯ウ云フ會社ノ設立ト云フコトニ付キマシテハ無論私達ハ賛成デアリマス、併シナガラ、此ノ會社ノ目的重點ハソコニアリマスケレドモ、第十二條ノ營業ノ種目ヲ見マス「鑛業、林業、農業及畜産業」トアリマス、私ハ此ノ際鑛業、林業、農業、畜産業及水産業ト、是非トモ水産業ト云フコトヲココヘ附加ヘテ戴キタイノデアリマス、ドウシテ此ノ水産業ガ「オミット」サレタカト云フコトヲ御聽キシタイ、無論第五

ノ「前各號ノ外經濟開發ノ爲必要ナル事業」ト云フコトニ含マレテ居ルト仰シヤルカモ知レマセスケレドモ、併シソレデハ甚ダ水産業ガ可哀サウデス、御承知ノ如ク樺太ノ水産業ハ年ニ何千萬圓ト云フ水揚げヲシテ居リマス、國家ノ食糧政策ニ非常ナル貢獻ヲシテ居ル、無論過去ノ成績ヲズツト見マスト、或ハ衰微シテ行クヤウナ感ハアリマス、ケレドモソレハ適切ナル政策ガナカツタ爲メト私ハ考ヘマス、水産業ニ對スル深い認識ヲ持ツテ居ラレナカッタ、其ノ證據ニハ、内地ノ各府縣ニハ水産試驗場ト云フ獨立ノ機關ガアリマスニモ拘ラズ、樺太ニハ唯樺太ノ總括的ナ試驗場ガアルノミデ、水産ノ部門ハ極ク小部分デアルト云フヤウナ譯デ、水産業ニ對スル御熱心ノ程度ガ低カッタ、鮭、鱒ノ如キハ成程段々獲レナクナツテ來マシタ、併シ新シク考ヘルト、是ハ私ノミナラズ専門家ニ言ハセマスト、皆一樣ニサウ言フノデアリマスカラ、是ハ本當グラウト思ヒマスガ、鯨ノ如キモ、或ハ鰻ノ如キモ、或ハ鯖ノ如キモ閑却サレテ居ル、是ハ將來非常ニ見込ミノアル仕事デア

ル、鯨ノ如キハ御承知ノ通り北海道ガ獲レナクナリマシタガ、樺太ハ非常ニ盛ンナモノデアル、是等ニ對スル御考ヘハドウ云フ御考ヘヲ持ツテ居ラレマスカ、日本ノ食糧政策ハドウシテモ水産ニ依ラナケレバ將來成立タナイト言ハレテ居リマス、ト言フノハ、濠洲カラ牛毛入ツテ來ナクナリマスシ、外地カラノ食糧品ノ輸入ト云フモノハ先ヅ以テ見込ミハナイ、サウ云フヤウナ狀態デアリマス、併シ蛋白質ハドウシテモ攝ラナクテハイケナイ、「ドイッ」ガ第一回ノ歐洲戰爭ノ時ニ敗北シタノハ、蛋白質ノ缺乏デ

アツタト云フコトデアリマスガ、此ノ蛋白質ハ何ニ依ツテ得ラレルカト申シマス、日本ノ現狀カラ言ヒマスレバ水産物ヨリ外ニハナイト思ヒマス、斯ウ云フコトカラ考ヘマス、ドウシテモ水産ト云フコトニ付キマシテモウ少シ熱心ニ關心ヲ持ツテ戴キタ

的ノ水産會社ガナイノハ私ハ非常ニ遺憾トシテ居タノデアリマスガ、是非トモ此ノ際此ノ樺太開發株式會社ノ主要ナル目的ノ中ニ水産業ヲ加ヘラレンコトヲ御願致シマシテ、之ニ對スル御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

ヲ輕シタ譯デハナイノデアリマス、現在ノ中央試驗場ノ水産場ト云フモノガ即チ以前ノ水産試驗場デアリマス、各種ノ試驗機關ヲ綜合シテ試驗研究ヲ進メルガ宜イカ、或ハ各、分立サセテ進メルガ宜イカト云フコトハ、兩方ニ議論ノ理由ノアルコトデアリ

思ヒマス、是ハ是非トモ將來獎勵スベキモノダラウト考ヘテ居リマス、ソレカラ鮭鱒ノ流シ網ノ如キモ彼處ハ禁止サレテ居リマスケレドモ、水産ノ増産ト云フコトノ建前カラ云ヒマス、是ハ許可スベキモノト思ヒマス

イト思フノデアリマス、殊ニ今度米國トデモ戰端ヲ開キマスレバ、最早南ノ方ト云フモノハ望ミガナイト私ハ思ヒマス、是ハ海軍ノ當局者モサウ言ツテ居リマス、私共ハ此ノ間中堅幹部ノ人ニモ會ヒマシタガ、戰爭ニナレバ南洋ノ方ハ駄目ダ、ドウシテモ水産ハ北方カラ獲ラナクテハイケナイ、諸テ北方カラシテモ、太平洋沿岸ノ方ハ先

○小河政府委員 便宜上私カラ御答ヘヲ申上ゲマス、樺太ノ水産開發ノ必要デアリマスル所以ハ田代サシノ御考ヘト全然同様ノ考ヘヲ持ツテ居リマス、唯然ラバナゼ此處ニ農林畜産業ハ入レテアツテ水産業ハ入レテナイカ、斯ウ云フ問題デゴザイマスガ、御承知ノヤウニ、樺太ノ漁業ハ沿岸漁業ガ只今マデハ主デアリマス、沿岸ノ漁業組合ニ依リマスル定置漁業ニ依リマシテ、鰺、鱈、鱒ヲ獲ツテ居ルト云フノガ主ナ仕事デアリ

マシテ、唯沖合底曳ノ漁業ガ僅カニアリマスルガ、此ノ方ノ漁獲物ハ割合ニ少イノデアリマス、隨テ茲ニ若シ水産業ヲ入レルトスルト、大資本ヲ以テ其ノ漁獲ヲ殖ヤスト云フ仕事ガ別段此ノ場所ニナイノデゴザイマシテ、現在マデ既ニ樺太共同漁業株式會社ヲシテ水産業ノ一元ノ統一ヲサシテ居ル譯デアリマスルノデ、此ノ際ニ直チニ之ニ加ヘテ行クト云フコトモ如何カト思ヒマシテ、一應ハ此處カラ除イテアル譯デアリ

○小河政府委員 七百幾万圓ノ開墾助成ト申シマスノハ、ドレデスカ、樺太廳豫算ノ方ノ石炭ノ方デスカ

太、カムチャツカノ西海岸、其處ハ海軍力ガナクテモ獲レル、サウシテ其ノ中心トナルモノハ無論樺太デアル、斯ウ云フ風ナ考ヘテ海軍デハ持ツテ居ラレマス、現下ノ形勢ハサウ云フ風ニ非常ニ逼迫シテ居リマスノデ、樺太廳ト致シマシテモ、斯ウ云フ會社ヲ設立ナサレマシタナラバ、其ノ目的ノ中ニ水産ノ開發發展ヲ圖ルト云フコトヲ先ヅ第一番目位ニ掲ゲテ戴キタイト思フ程デアリマス、外地ノ方ニハ、御承知ノ通り南洋拓殖會社ガアリ、臺灣ニハ臺灣拓殖ガゴザイマス、此ノ仕事ハ水産ガ大キナ仕事デアリマス、又朝鮮ニハ御承知ノ通り朝鮮水産開發株式會社ト云フノガアリマス、南拓會社ハ二千萬圓、臺灣會社モ二千萬圓、サウシテ其ノ下ニ南興水産トカ色々ナ小サイ子會社ガアリマシテ、皆同ノ方ノ水産ノ開發ヲ圖ツテ居リマスガ、獨リ北方ニ國策

○田代委員 水産業ニ對スル今ノ御言葉ヲ伺ヒマス、大變私ハ悲觀スルノデアリマスガ、併シ此ノ事ニ付キマシテハ何レ委員長ニモ篤ト御願ヒスルナリ、又當路ノ御方トモ膝ヲ突合セテ細カク能ク御話スルナリシテ、是非トモ是ハ實現シテ戴クト云フコトニシテ置キマシテ、水産ニ對スル質問ハ打切りマス

○田代委員 サウデス

○小河政府委員 石炭ニ對スル助成金七百何万圓ノ中ニハ此ノ會社ノ分ハ一應入ツテ居リマセス、ソレハドウ云フ譯カト申シマスト、只今ハ政府所有ノ鑛區ニナツテ居リマシテ、此ノ政府ノ掘ル炭ニ對シテ政府ガ助成ヲスルト云フコトハワカシイト云フコトデ、一應之ニ對スル助成金ハ入ツテ居リマセス、併シ是ハ會社ヲ設立致シマシタ後ノ會社ノ仕事ニ對シテハ助成ヲスベキガ當然ダト思フノデアリマスガ、本年度以後ノ出炭ハソレ程大量ニナリマセスノデ、昭和十七年度カラハ増産獎勵金其ノ他ヲ支出スル積リデゴザイマスガ、一應本會社ノ鑛區ニナルベキ政府所有ノ鑛區ノ石炭ノ採掘ニ

併シナガラ將來水産物ノ加工工業、又ハ遠洋漁業ニ依ル所ノ新ナル魚田ノ開發、斯ウ云フ積極的方面ニハ第五號ニ基キマシテ是ガ業務ヲヤリタイ、斯様ニ存ジテ居リマス、ソレカラ是ハ直接ノ御尋ネデハゴザイマセヌデシタガ、一寸御引例ニナリマシタノデ一言ダケ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、樺太ニハ水産試驗場ガ無イト云フコトハ水産

○小河政府委員 石炭ニ對スル助成金七百何万圓ノ中ニハ此ノ會社ノ分ハ一應入ツテ居リマセス、ソレハドウ云フ譯カト申シマスト、只今ハ政府所有ノ鑛區ニナツテ居リマシテ、此ノ政府ノ掘ル炭ニ對シテ政府ガ助成ヲスルト云フコトハワカシイト云フコトデ、一應之ニ對スル助成金ハ入ツテ居リマセス、併シ是ハ會社ヲ設立致シマシタ後ノ會社ノ仕事ニ對シテハ助成ヲスベキガ當然ダト思フノデアリマスガ、本年度以後ノ出炭ハソレ程大量ニナリマセスノデ、昭和十七年度カラハ増産獎勵金其ノ他ヲ支出スル積リデゴザイマスガ、一應本會社ノ鑛區ニナルベキ政府所有ノ鑛區ノ石炭ノ採掘ニ

○田代委員 水産業ニ對スル今ノ御言葉ヲ伺ヒマス、大變私ハ悲觀スルノデアリマスガ、併シ此ノ事ニ付キマシテハ何レ委員長ニモ篤ト御願ヒスルナリ、又當路ノ御方トモ膝ヲ突合セテ細カク能ク御話スルナリシテ、是非トモ是ハ實現シテ戴クト云フコトニシテ置キマシテ、水産ニ對スル質問ハ打切りマス

○小河政府委員 石炭ニ對スル助成金七百何万圓ノ中ニハ此ノ會社ノ分ハ一應入ツテ居リマセス、ソレハドウ云フ譯カト申シマスト、只今ハ政府所有ノ鑛區ニナツテ居リマシテ、此ノ政府ノ掘ル炭ニ對シテ政府ガ助成ヲスルト云フコトハワカシイト云フコトデ、一應之ニ對スル助成金ハ入ツテ居リマセス、併シ是ハ會社ヲ設立致シマシタ後ノ會社ノ仕事ニ對シテハ助成ヲスベキガ當然ダト思フノデアリマスガ、本年度以後ノ出炭ハソレ程大量ニナリマセスノデ、昭和十七年度カラハ増産獎勵金其ノ他ヲ支出スル積リデゴザイマスガ、一應本會社ノ鑛區ニナルベキ政府所有ノ鑛區ノ石炭ノ採掘ニ

付キマシテハ増産獎勵金及ビ新坑獎勵金等  
モ見積ツテゴザイマセス、一般民有鑛區ニ  
對スル増産獎勵金ノミデゴザイマス、以上ノ  
ヤウニ御承知ヲ御願ヒシタイト思ヒマス

其ノ次ハ拂込資本金ノ額デスガ、是ハ五  
千萬圓ノ會社デゴザイマスノデ、其ノ半額  
ガ政府所有、半額ガ民間所有デゴザイマス  
ノデ、政府二千五百萬圓、民間二千五百萬  
圓ノ出資ノ豫定デゴザイマス、而シテ第一  
回拂込ハ株金ノ半額拂込ノ豫定デゴザイマ  
スノデ、政府ニ於テ二千二百五十萬圓、民間  
ニ於テモ二千二百五十萬圓、合計二千五百萬  
圓ノ拂込ヲ致ス積リデゴザイマスガ、政府  
ノ拂込ニ於キマシテハ鑛區ノ權利ノ評價如  
何ニ依リマスルガ、評價委員會ノ結果ニ基  
キマシテ、異同ハゴザイマスガ一應二百五  
十萬圓位ノ評價ニナリハスマイカト云フ豫  
定ノ下ニ現物出資二百五十萬圓、現金出資  
千萬圓合計二千二百五十萬圓ヲ出資スル豫定  
ニ相成ツテ居リマス、而シテ其ノ一千万圓  
ノ方ハ歲出豫算ノ方デ御協賛ヲ仰イデ居ル  
ヤウナ次第デゴザイマス

○田代委員 サウスルト千六百萬圓ト云フ  
ノハ私ノ思違ヒデアリマシテ、千二百五十  
萬圓ト云フコトニ相成ルト思ヒマス、ソコ  
デ從來非常ニ有望視サレテ居リマシタ樺太  
ノ石炭ガ、何ガ故ニ其ノ儘ニ見捨テラレテ  
居ツタカト申シマス、採掘ヲシマシテモ  
之ヲ内地ヘ運搬スルニ、其ノ運搬ノ方法ガ  
ナイト云フコトガ主要ナル原因デアリマシ  
タノデスガ、此ノ點下ウ云フ方法ヲ御執リ  
ニナルノデアリマスガ、殊ニ船舶ノ非常ニ  
不足シテ居ル場合ニ於テ採掘シタモノヲ内  
地ヘ持ツテ來ルト云フ點ニ付キマシテハ、  
非常ナ困難ガ伴フト思ヒマスガ、其ノ點ハ

如何デスカ

○小河政府委員 樺太ノ石炭ノ海上輸送ノ  
困難デアリマスル點ハ、全ク田代サンノ御  
心配ノ通りデゴザイマス、實ハ昭和十五年  
度ニ於キマシテモ豫定ノ増産ハ十分出來マ  
シタケレドモ、海上輸送ガ思フヤウニ行キ  
マセヌデシタ爲ニ、豫定計畫量ノ内地移出  
ヲ見ルコトガ出來マセヌデ、僅カデハア  
リマスガ、積殘リヲ見タト云フコトハ全ク  
遺憾ノ極ミデゴザイマス、隨テ政府ト致シ  
マシテハ他ノ地方ニ港灣ノ修築其ノ他ノ事  
ヲ計畫致シマシテ、將來樺太ノ石炭ヲ内地  
ニ輸送致シマスル上ニ便利ニ相成リマスル  
ヤウニ努メタイト思ツテ居リマスガ、幸ニ  
來年度豫算ニ於テ御審議ヲ仰イデ居リマス  
ル惠須取築港ノ擴張、眞岡、本斗ノ築港ノ  
擴張等ト共ニ、新線鐵道ノ建設等ニ依リマシ  
テ、冬期間ノ不凍港ヘノ輸送ト云フコトモ  
實ハ考ヘテ居ル次第デアリマス、併シナガ  
ラ現在實施致シテ居リマスル奥南名好ノ炭  
田ノ炭ヲ如何ニシテ出スカト云フ問題ハ、  
是ハ從來ノ樺太各地ノ炭礦ト同様ニ山元カ  
ラ最モ近い海岸ノ南名好マデ鐵道ヲ敷キマ  
シテ、此處ニ極ク簡略ナ木造棧橋ヲ拵ヘテ、  
サウシテ輕荷役ニ依ツテ沖取ヲ致シマシテ  
本船ニ積込シテ、内地ニ輸送スル計畫デア  
リマス將來ハ内幌トノ間ニ鐵道ヲ敷設致  
シマシテ本斗マデ送ツテ、本斗ノ港ヲ利  
用シテ移出スル方法モ考ヘ得ルコトダト存  
ジテ居リマス

○沖島委員長 他ニ質疑ヲナサル方ハゴザ  
イマセヌカ——ソレデハ本日ハ是デ散會ヲ  
致シタイト思ヒマスガ、御異議アリマセヌ  
カ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○沖島委員長 デハ散會致シマス、次會ノ  
日程ハ公報ヲ以テ御通知致シマス  
午後二時十分散會

昭和十六年二月三日印刷

昭和十六年二月四日發行

衆議院事務局

印刷者 内閣印刷局